

1887 (明治 20) 年に山形県内で描かれたカメについて
— 両羽博物図譜に描かれたイシガメ科と思われる淡水ガメ

後藤康人¹・野田英樹²

¹ 100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2 八丈島を盛りあげ隊 歴史民俗資料館担当

² 409-019 山梨県上野原市八ツ沢 2525 帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科

Freshwater Turtles Depicted in Yamagata Prefecture in 1887

— Turtles Likely Belonging to the Family Geoemydidae in Ryou Hakubutsu Zufu.

By Yasuhito GOTO¹ and Hideki NODA²

¹ *Hachimoritai staff in charge of history and folklore museum, 2551-2, Okago, Hachijo-machi, Hachijojima, Tokyo, 100-1498, Japan*

² *Department of Animal Sciences, Faculty of Life & Environmental Sciences, Teikyo University of Science, 2525, Yatsusawa Uenohara, Yamanashi, 409-0193, Japan*

はじめに

本稿では山形県有形指定文化財の両羽博物図譜りょううほくぶつずふに収められている淡水ガメ画(図1)について報告する。明治二十年七月一日と記されていることから、1887年7月1日に描き終えたものと推定される。東北地方の淡水ガメについては、古い年代の資料としては江戸時代中期(18世紀前期)の諸国産物帳に出羽国すっぽんで鱉が確認できる。しかし、イシガメ科 Geoemydidae のカメを示す名目は記されていない(後藤, 2025)。両羽博物図譜の作者である松森胤保まつもり たねやす(1825-1892)は現在の山形県鶴岡市の人物であることから、現時点で確認できる限り、東北地方における最も古い部類のイシガメ科のカメ記録の1つと考えられる。

松森胤保と両羽博物図譜

松森は庄内藩士の家の出身で、現在の山形県鶴岡市に生まれた。幼いころから文武両道に優れ、戊辰戦争において活躍したのち、戦後は藩の敗戦



図1. 松森が描いた淡水ガメ(酒田市直図書館 HP「両羽博物図譜の世界」より)。

処理から新体制移管に向けた業務全般に勤しんだ。鶴岡に戻ってからも山形県会議員や酒田町戸長など多くの公職に就いたが、61歳で一切を辞して自らの研究活動に専念し、生涯に400冊に上る膨大な著述を残した。両羽博物図譜7部59巻(未完)は、羽前と羽後(現・山形県と秋田県)の動植物や昆虫等を彩色して記録した図譜で、松森の生涯最後の10年間に執筆されたものである(磯野, 1989a; 1989b)。

本稿作成においては、科学書院で刊行されている影印本(松森, 2023)をテキストとし、彩色された図絵は酒田市立図書館「両羽博物図譜の世界」を参照した(酒田市立図書館ホームページ, 2025年12月1日確認)。画像の転載については事前に酒田市立図書館に申請の上で使用のご許可をいただいた。

両羽博物図譜に採録されたカメ5種

両羽博物図譜では5種のカメが採り上げられている。スッポン(スッポン属 *Pelodiscus* sp.)、オサガメ *Dermochelys coriacea*、タイマイ *Eretmochelys imbricata*、アカウミガメ *Caretta caretta*、そして本報告のイシガメ科と思われるカメである。スッポンは絵とともに養鱉に関する詳細が記されている。オサガメは松森が模写した絵についてごく短い文章が記されている。タイマイは鱉甲(べっ甲細工)について記されている。アカウミガメとイシガメ科と思われるカメは絵のみで文章は添えられていない。磯野(1989a)は両羽博物図譜のうち爬虫類と両生類についての松森の関心の低さを指摘しているが、カメ5種の著述内容に限って言えば、カメへの興味よりも地元地域の殖産に資するか否かという観点から書かれているように思える。

松森のカメ画から読み取れる情報

松森が描いたイシガメ科と思われるカメは幼体と成体の2頭が描かれている。粗い線ではあるが、クサガメ *Mauremys reevesii*あるいはニホンイシガメ *M. japonica*(以下イシガメ)と思われる形態的特徴が見られる(図1)。先述のとおり、明治二十年七月一日と記してあるだけで、解説文はなく、どのような経緯で描かれたものかは不明である。ただし、松森が亡くなる5年前の筆であること、研究対象の蒐集に熱心だった人物であることから、おそらく鶴岡市内の自宅で飼育していた個体を描いたのではないかと推察される。両羽博物図譜には外国産爬虫類の図絵も収められているが、磯野(1989a)は当時の鶴岡に国内外の珍しい動物が見世物として興行に来ていた可能性を指摘している。珍獣の見世物は江戸時代に入って流行するようになったが、その中には身近な生きもの(例えば大墓や金魚)も含まれていた(神田, 2025)。種によっては売買が行われていたのかもしれない。成体のカメは円錐状の木材の上に載せられているが、このような扱いは大阪の放し亀と同様のもので江戸とは異なる(図2)。カメは西日本の飼育文化とともに持ち込まれた可能性が考えられる。

なお、カメの描写はクサガメともイシガメとも判断し得るため、本稿では種レベルでの同定を行わず、イシガメ科のカメとして扱った。今後の諸賢の判断を仰ぎたい。

おわりに(東北6県のクサガメとイシガメの扱い)

興味深いことに東北6県のクサガメとイシガメに対する扱いは青森県(青森県, 2008)、秋田県(本郷, 2002)、岩手県(岩手県, 2020)、宮城県(宮城県, 2021; 藤原, 2021)、福島県(福島県生活環境部自然保護課, 2025)の5県が外来生

物(外来種, 国内移入, 移入など)と見做しているのに対して, 山形県では現時点(本稿の投稿時点)で特に言及している形跡がない. 例えば2003年に行われた日本全国カメさがし(日本自然保護協会, 2004)では山形県鶴岡市からクサガメが報告され, また, 2016年に県が行った外来種生息状況調査報告書(山形県みどり自然課, 2017)でも鶴岡市内でのクサガメ生息が確認できる(報告書中の画像のキャプションに「気比池で採捕されたニホンイシガメ」とあるが背甲の3本キールが確認できることからクサガメを誤同定した可能性が高い). 松森が残した淡水ガメ画は, それらの侵入および定着の様相と直接的な因果関係を示すものではないが, 歴史背景を考える際の補助

的資料として位置づけることができよう.

引用文献

- 本郷敏夫. 2002. 爬虫類概説. p.87. 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 2002-秋田県版レッドデータブック-動物編. 秋田県生活環境文化部自然保護課(編) 秋田県文化と環境のむら協会, 秋田.
- 青森県. 2008 (2025年12月1日確認). 青森県外来種リストについて. <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/gairaishu-rest.html>
- 藤原愛弓. 2021. 宮城学院女子大学構内の爬虫類相. 生活環境科学研究所研究報告(53):25-32.
- 福島県生活環境部自然保護課. 2025 (2025年12月1日確認). ふくしまブルーリスト 2024年度版. <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/683129.pdf>
- 後藤康人. 2025. 歴史資料から見た江戸時代中期の淡水性カメ類相-諸国産物長におけるカメの名目と分布の検討. 生物の化学 遺伝 2025(6):488-493.
- 平亭銀鷄. 1835 (2025年12月1日確認). 街能噂冬. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/pid/8942930>
- 岩手県. 2020 (2025年12月1日確認). いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web版. <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rd/rdb/index.html>
- 磯野直秀. 1989a. 『両羽博物図譜』の研究1 松森胤保の博物学関係著作. 慶應義塾大学日吉紀要 自然科学6(1989.6):27-47.
- 磯野直秀. 1989b. 『両羽博物図譜』の研究2 成立までの経緯と各部の概要. 慶應義塾大学日吉紀要 自然科学6(1989.6):82-98.

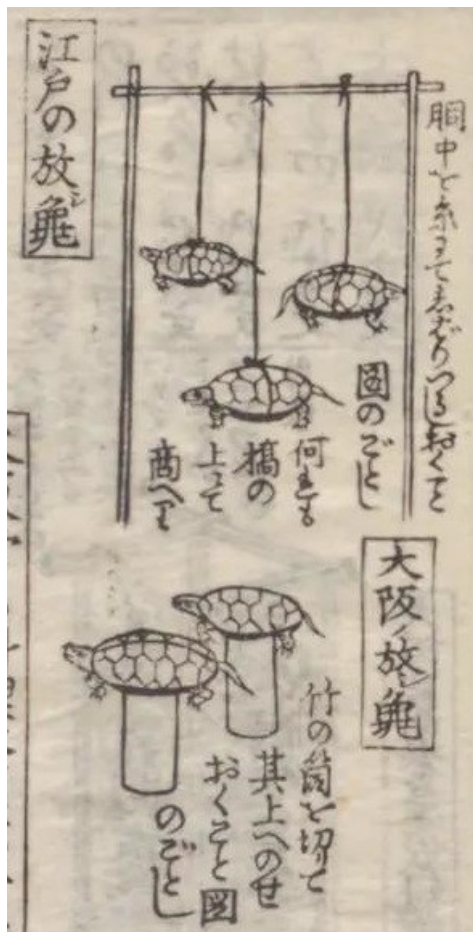


図2. 江戸と大阪の放し亀の違い. 街能噂冬(平亭, 1835)より.

神田由築. 2025. 豊後国浜之市の曲馬芝居と見世物. p.243-256. 井奥成彦 (編) 動物たちの江戸時代. 慶應義塾大学出版会, 東京.

松森胤保. 2023. 改訂新版 両羽博物図譜 原文篇 第2部・動物篇 II. 近世植物・動物・鉱物図譜集成 諸国産物帳集成第3期. 科学書院, 東京.

宮城県. 2021 (2025年12月1日確認). 宮城県レッドデータブック 2016 について. <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red-book2016.html>

日本自然保護協会. 2004 (2025年12月1日確認). 自

然しらべ2003「日本全国カメさがし」結果レポート. https://www.nacsj.or.jp/wp/wp-content/uploads/2003/07/ss2003_report.pdf

酒田市立図書館ホームページ. (2025年12月1日確認). 両羽博物図譜の世界. <https://miraini-sakata.jp/sakata-lib/matumori/index.html>

山形県みどり自然課. 2017 (2025年12月1日確認). 平成28年度 絶滅危惧種保全・外来種防除対策事業 (外来種生息状況調査) 報告書. <https://www.pref.yamagata.jp/documents/2432/h28akamimigamehoukokusho.pdf>

爬虫類・両生類の展示即売会におけるニホンイシガメの相場

加賀山翔一^{1,2}・今津健志²

¹一般社団法人淡水生態研究所 京都府長岡京市久貝2丁目2-22

²千葉県ニホンイシガメ保護対策協議会 〒130-0022 東京都墨田区江東橋3-3-7 (東京環境工科専門学校内)

The market price of the Japanese pond turtles (*Mauremys japonica*) in exhibition and sale of reptiles and amphibians in Japan.

By Shawichi KAGAYAMA¹ and Takeshi IMAZU²

¹ *Institute of Freshwater Ecological Research, Kugai 2-2-22, Nagaokakyo, Kyoto 617-0837, Japan*

² *Conservation Activity Council of the Native Freshwater Turtles in Chiba Prefecture, 3-3-7 Kotobashi, Sumida-ku, Tokyo 130-8606, Japan*

はじめに

野生個体の過剰採集 (以下, 乱獲) は, 世界各地でカメ類を劇的に減少させてきた主要因の1つである (Gibbons et al., 2000; Moll and Moll, 2004; Stanford et al., 2020). 乱獲されたカメ類は食用, 薬用及びペット用として現地で利用されるとともに, 世界各地へと輸出されたものが商業流通している.

野外では, 多くのカメ類は成体 (メス) の生存率が非常に高く, 長い寿命の中で何度も産卵する

ことができる一方で, 成熟までに長期間を要し, 卵内の胚発生中や孵化幼体等の初期の生存率は非常に低く (Iverson, 1991), ほとんどの個体が成体まで生き残れない. このような生態的特徴から, カメ類の野外集団においてはひとたび成体の個体数が激減すると, 元の水準まで回復するのに長い時間を要すること (Pitt and Nickerson, 2013; Mullin et al. 2020), もしくは長期間が経過しても回復しないことが指摘されている (Keevil et al., 2018). 以上のことから, 持続的